
NOTICE OF REASONS FOR REJECTION FROM THE JAPAN PATENT OFFICE

Japanese Patent Application No.: **2002-369202**

Drafted on: December 15, 2008

Examiner:

Tomohiro HAKAMADA 3401 2B00

Representative(s):

Masayuki SHOBAYASHI and 1 another

Grounds:

Article 29, Paragraph 2; Article 36

The Examiner asserts that the present Application should be rejected for the reason(s) below.
The Applicant(s) is/are invited to submit a response **within 60 days** of the Transmission Date
of this Notice.

[Translation of on the Notice of Reasons for Rejection is /are omitted.]

整理番号 CS1-035
発送番号 777358
発送日 平成20年12月24日

拒絶理由通知書

特許出願の番号 特願2002-369202
起案日 平成20年12月15日
特許庁審査官 複田 知弘 3401 2B00
特許出願人代理人 正林 真之（外 1名）様
適用条文 第29条第2項、第36条

この出願は、次の理由によって拒絶をすべきものです。これについて意見がありましたら、この通知書の発送の日から60日以内に意見書を提出してください。

理由

理由1

この出願は、特許請求の範囲の記載が下記の点で、特許法第36条第6項第2号に規定する要件を満たしていない。

記

1. 請求項3には「箱型ケージ」が、「繁殖実験用にマウスが雌雄混在して飼育される」ものであるという点について記載されているが、請求項3に係る発明は床敷の発明であり、上記記載事項が床敷の機能又は構造を特定する上でどのような寄与をもたらしているのかが不明である。

よって、請求項3に係る発明は明確でない。また、請求項3を引用する請求項4に係る発明もまた同様の理由により明確でない。

理由2

この出願の下記の請求項に係る発明は、その出願前に日本国内又は外国において、頒布された下記の刊行物に記載された発明又は電気通信回線を通じて公衆に利用可能となった発明に基いて、その出願前にその発明の属する技術の分野における通常の知識を有する者が容易に発明をすることができたものであるから、特許法第29条第2項の規定により特許を受けることができない。

記 （引用文献等については引用文献等一覧参照）

- ・請求項1-8
- ・引用文献1, 2
- ・備考

本願の請求項1に係る発明と引用文献1（特に段落【0017】-【0024】参照）に記載された発明とを対比すると、本願の請求項1に係る発明は、ネズミ科動物が飼育される箱型ケージの平床に敷かれるものであるのに對し、引用文献1に記載された発明は、床に敷くマットではあるが、ネズミ科動物が飼育される箱型ケージの平床に敷かれるものであるか否かについてはは不明であるという点において、両発明は相違する。

しかしながら、引用文献2には、悪臭源であるアンモニア等を吸着する床敷（1）を、マウス等の実験動物用の動物用ケージ（6）の平らな床に敷く構造のものとする点について記載されている。引用文献1に記載された発明において、引用文献2に記載された上記事項に鑑みて、本願の請求項1に係る発明のようにすることは、当業者が容易になし得たことである。

請求項2に係る発明については、引用文献2の特に第3図等を参照されたい。

請求項 3 に係る発明については、上記の請求項 1 及び 2 に係る発明に関する検討を参照されたい。

ただし、上記理由 1において示したとおり請求項 3 に係る発明は明確でないため、ここでは請求項 3 に記載された「繁殖実験用にマウスが雌雄混在して飼育される」との「箱型ケージ」に関する記載は、「床敷」の機能又は構造の特定には何ら寄与していないものとして判断を行った。

請求項 4 に係る発明について、引用文献 1 の特に段落【0038】等には、複数枚のシート本体を積層する点について記載されている。引用文献 1 に記載された、特に段落【0017】—【0024】に記載された実施例に係る発明に、上記の点を適用することは、当業者が容易にし得たことである。

請求項 5 に係る発明については、上記の請求項 1 に係る発明に関する検討を参照されたい。

請求項 6 に係る発明については、上記の請求項 2 に係る発明に関する検討を参照されたい。

請求項 7 に係る発明については、上記の請求項 4 に係る発明に関する検討を参照されたい。

請求項 8 に係る発明について、引用文献 1 (特に段落【0018】及び【0021】参照) には、セルロースからなるシート本体(1)にカルボキシル基を含むマクロモノマーを放射線グラフト重合させる点について記載されている。アクリル酸がカルボキシル基を備えたものであることは、例えば特開昭62-233163号公報(特に第2頁左下欄第16行—第3頁左上欄第9行参照)等に記載されているとおり周知の事項であるから、引用文献 1 に記載された発明において、カルボキシル基を含むマクロモノマーとしてアクリル酸を採用することは、当業者が容易にし得たことである。

- ・請求項 9
- ・引用文献 1—3
- ・備考

引用文献 3 (特に段落【0008】参照) には、セルロースにカルボキシル基を導入するため、TEMPO を用いてセルロースを酸化させる点について記載されている。引用文献 1 に記載された発明に、引用文献 3 に記載された上記の点を適用することは、当業者が容易にし得たことである。

引 用 文 献 等 一 覧

1. 特開2001-286231号公報
2. 実平04-038701号公報
3. 特開2001-049591号公報

先 行 技 術 文 献 調 査 結 果 の 記 録

- ・調査した分野 I P C A01K 1/015
- ・先行技術文献 実願平03-089708号(実開平05-039258号)
のCD-ROM

この先行技術文献調査結果の記録は、拒絶理由を構成するものではない。

この拒絶理由通知書の内容に関するお問い合わせ、または面接のご希望がございましたら下記までご連絡下さい。

特許審査第一部 自然資源 梶田知弘
TEL 03(3581)1101 内線 3240